資料１

「さがの森林・林業ビジョン（仮称）」の素案について

佐賀県森林審議会

書面による意見聴取等（3～4月）の主な意見と対応

期間及び目標等について

- 10年後だけでなく、2050年を見越した目標を示すべきでは？

→ 2050年を目標年としたビジョンとする。（スライド7）

- 今後目標値を検討されるときは、最終ゴールの2050年の目標が達成が見込めつつ現状に配慮した数値目標をたてられると良い。
- 安定した生活ができなくては林業を続けたり、新規に参入したりすることは難しいと思うので、収入面での目標もあるといい。具体的な金額が難しい場合は「現在の収入に対する満足度」「将来設計の見通し」などでもいいかと思う。
- 林業の就業者を前年よりも少しずつ増やしていく。

→ 数値目標については今後検討する。（スライド16）

- 「ビジョン」とは、目指す姿・実現したい未来を示すものであり、シンプルで分かりやすいものにすべき。長期ビジョンに具体的な施策まで記載する必要はないものと思われる。

→ 目指すべき姿や取組の基本方針をシンプルに表現する。

個別の取り組みについて

- 森林経営管理制度や森林環境譲与税について触れないのか？

森をつくる
1.多面的機能の発揮
に記載。
(1)②森林経営管理制度の円滑な運用
（スライド13）

- シカが入ってこないようなことは検討しなくてよいのか。

森をつくる
2.森林資源の循環利用
に記載。
(2)③野生獣類による被害の防止対策
（スライド13）
なお、今のところシカはほぼ確認されていない。

- 現在住んでいる戸建住宅やマンションのリフォームやリノベーションに県産木材を使用する際に何らかの補助があるともう少し身近に感じてもらえ利用促進にもつながる。

木を使う
2.県産木材の利用促進
に記載。
(1)①住宅・非住宅建築物における県産木材利用の推進
（スライド14）

- 各世代に合わせて本当の森林の姿、あり方を積極的にアピール・説明する機会や人材を育てるシステムが必要であると思う。

木を使う
2.県産木材の利用促進
（人を育てる
1.経営基盤の強化（再掲））に記載。
(3)②木育活動の強化・指導者の育成
（スライド14）

- 親から相続した森林をどうすればいいのか分からないという人たちが無料で相談できるような窓口の設置や周知にも力を入れていってほしい。

人を育てる
1.経営基盤の強化に記載。
(3)①森林所有者に対する森林・林業の普及啓発
（スライド14）

- 関心がない人やボランティアに参加したことがない人が多い。

人を育てる
2.林業就業者等の確保・育成に記載。
(3)森川海のつながりへの意識の醸成
（スライド14）

- 教育・研修を受けた人を受入れ出来たら、大変ありがたい。

人を育てる
1.林業就業者等の確保・育成に記載。
(2)①林業就業者を新たに見出し教育する取組
（スライド14）

令和４年５月森林審議会における主な意見と対応

- 木材価格の高騰により民間業者による皆伐が進んでいると思われるが、皆伐後の植林について行政からの指導が必要ではないか。

→ **森をつくる**
1.多面的機能の発揮
に記載。
(1)①森林計画制度に即した適正な森林整備
（スライド13）

- 「人を育てる」とは主に作業員だと思われるが、所有林の評価を正しくできるよう、森林所有者を育てるという視点も必要ではないか。

→ **人を育てる**
1.経営基盤の強化に記載。
(3)①森林所有者に対する森林・林業の普及啓発
（スライド14）

- 数値目標の例として主伐・間伐面積とあるが、ゾーニングに対応した施業を進めるという観点から、針広混交林化や広葉樹林化といった指標も検討してほしい。
- 数値目標の例として森林ボランティア活動者数とあるが、それを受け入れる団体を増やすことも検討してほしい。

→ 数値目標についてはご意見を踏まえ今後検討。

- 森林が高齢化しているが、10～20年後の予測はどうなっているか。

→ シミュレーションについてスライド18に示す。

さがの森林・林業ビジョン（仮称）素案

ビジョンの策定にあたって

1　新たなビジョン策定の背景

森林の有する水源涵養や二酸化炭素吸収など多面的な機能を重視した森林づくりを進めるため、2050年を目標とした森林・林業・木材産業に関する施策の方向を示す「新しい佐賀の森林づくりビジョン」を2004年に策定し、2012年に一部見直しを行ったところ。

計画策定から17年（一部見直しから10年）が経過し、自然災害リスクの増大や脱炭素社会、森林・林業の持続性への期待が高まるなど、森林・林業を取り巻く情勢の大きな変化を踏まえ、新たにビジョンを策定する必要がある。

2　新たなビジョンの趣旨

持続可能な佐賀県の森林・林業の確立を実現するため、県民の期待並びに森林・林業の現状と課題について、それらを解決する取組を示すものである。

3　目標年度

中期目標：2032年度
長期目標：2050年度

佐賀県の森林・林業の特色

全国一位の人工林率

先人の努力により、スギやヒノキなどの人工林率が67%と全国一位となっている。



サザンカ自生北限地

千石山（神埼郡吉野ヶ里町）のサザンカは自生北限地帯として国の天然記念物に指定されている。



日本植林発祥之地

基山（三養基郡基山町）は、『日本書紀』の記録によると、日本で最初の植林の地とされている。



川古の大楠

川古の大楠（武雄市）は、全国で第５位※にランキングされる巨木で国の天然記念物に指定されている。



※環境省「自然環境保全基礎調査」より

佐賀県の森林・林業を取り巻く情勢の変化

社会情勢の変化

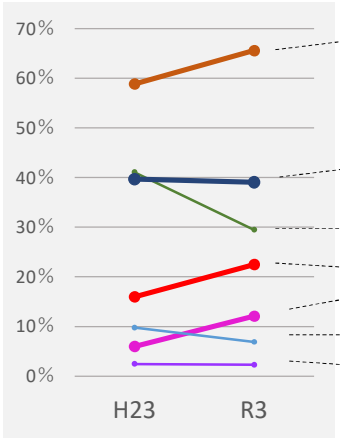
- 自然災害リスクの増大
- 人口減少社会
- 脱炭素社会へ向けた国内外の動き
- ＳＤＧｓへの関心の高まり
- 森林・林業の持続性と林業の成長産業化の両立への期待の高まり



県民の意識の変化

【県民アンケート】
重要だと思う森林の働きは何ですか？（1人2項目まで回答可）

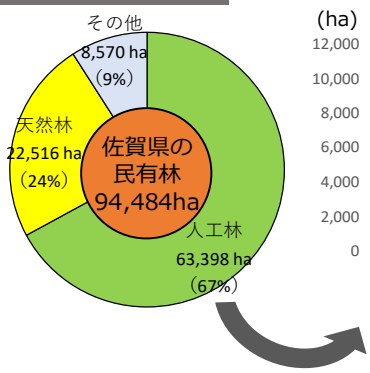
- 「災害防止」、「地球温暖化防止」への期待が大きい
- 「災害防止」、「木材生産」、「心や体を癒す働き」への期待が伸びている



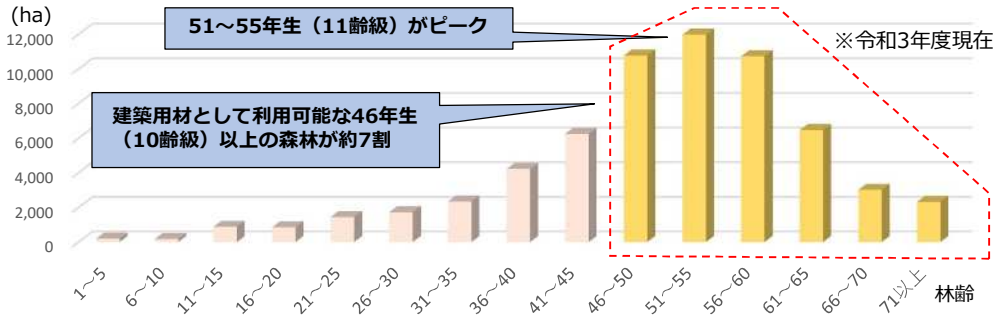
- 山崩れや洪水などの災害を防止する働き
- 二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き
- 水を蓄え、きれいにする働き
- 木材を生産する働き
- 景観を楽しんだり、森林浴などにより心や体を癒す働き
- 様々な動植物のすみかとなる働き
- 森林と人との関わりを学ぶなどの教育の場となる働き

佐賀県の森林・林業の現状と課題

人工林資源の充実



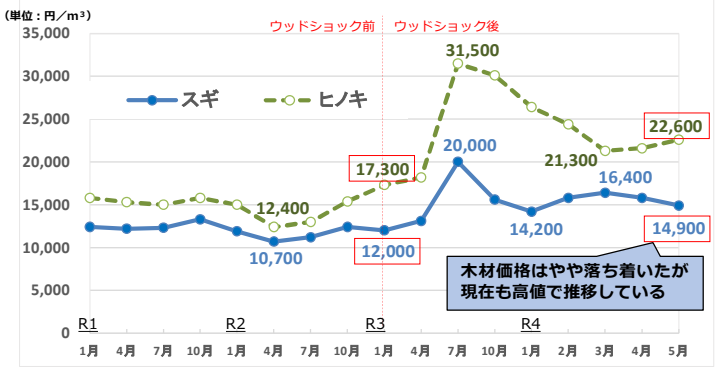
人工林の齢級構成



【課題】森林資源の循環利用

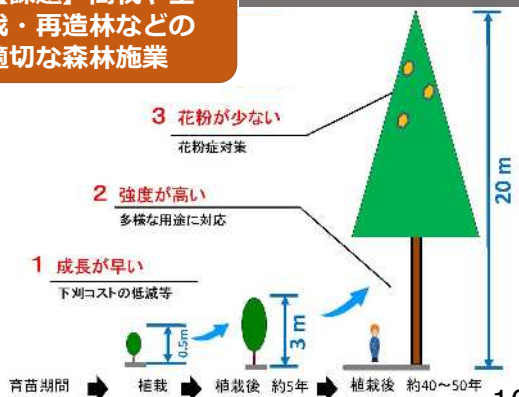
木材価格の長期低迷 →外材不足による高騰（ウッドショック）

【課題】原木の安定供給



【課題】間伐や主伐・再造林などの適切な森林施業

成長の早いサガンスギの開発

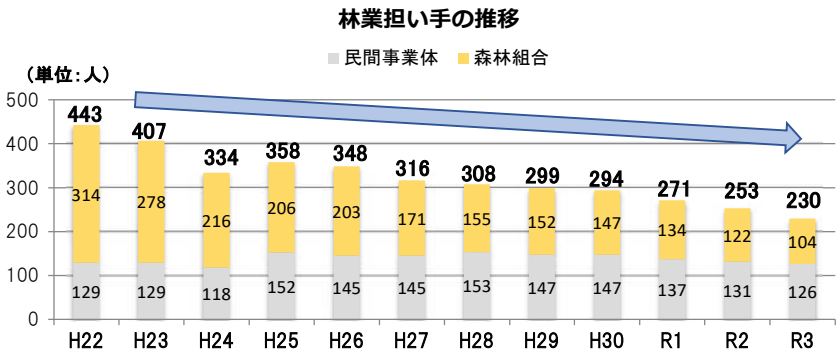


多発・長期化する集中豪雨



【課題】防災につながる森林づくり

林業担い手の減少



【課題】林業就業者等の育成・確保



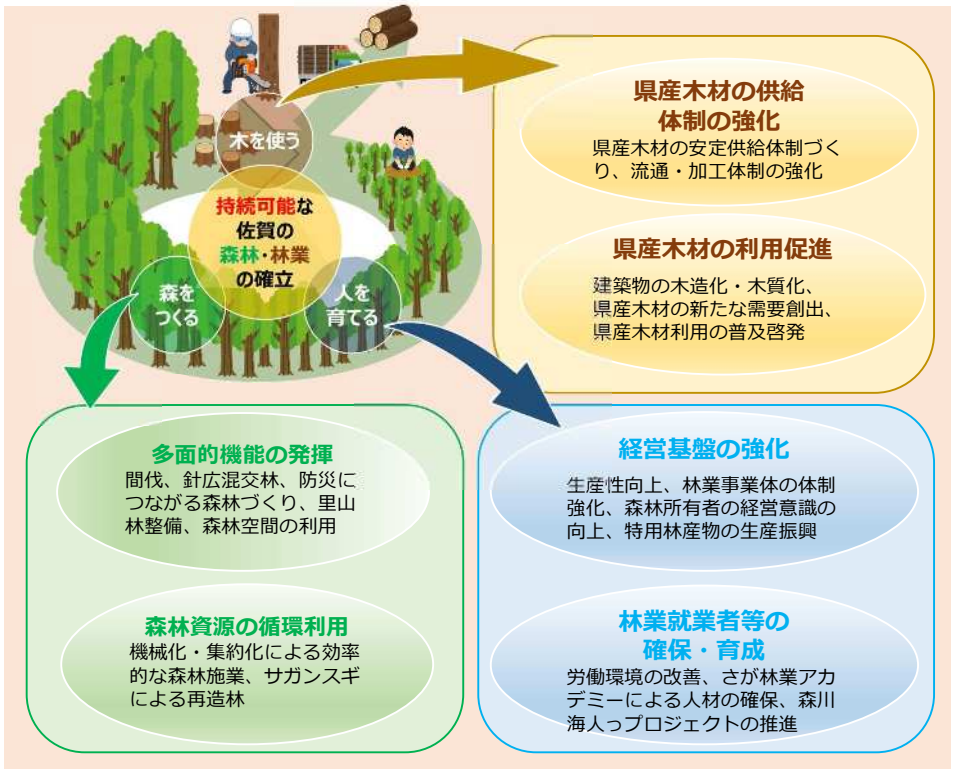
【課題】県民参加による森林づくり

目指すべき姿

基準年 2022（R４年度）

中期目標 2032（R14年度）

長期目標 2050（R32年度）



○森林の有する多面的機能の発揮

○林業の持続的かつ健全な発展

○森と川・海の結びつきの強化

○2050年カーボンニュートラル実現への貢献

取組方針

森をつくる

1．多面的機能の発揮

(1) 間伐・再造林などによる適正な森林整備
- ① 森林計画制度に即した適正な森林整備
- ② 森林経営管理制度の円滑な運用
- ③ 間伐・再造林による森林吸収量の確保
- ④ サガンスギの植栽による育林コストの低減

(2) 針広混交林・広葉樹林等の森林づくり
- ① 公益上重要な区域における針広混交林化を目的とした重点的な間伐
- ② 広葉樹への転換促進

(3) 防災につながる森林づくり
- ① 被災した森林の速やかな復旧
- ② 山地災害危険地区における事前防災の推進
- ③ 保安林の適切な維持管理
- ④ 林地開発許可制度の適切な運用

(4) 身近な里山林整備
- ① 県民協働による森林づくり

(5) 森林空間の利用
- ① 森林空間の利用拠点整備・強化

2．森林資源の循環利用

(1) 機械化・集約化による効率的な森林施業の実施
- ① 森林ゾーニングの有効活用
- ② 森林資源情報の共有、高度化
- ③ 林道の整備促進・強靭化
- ④ 植林・保育に係る負担軽減

(2) 適正な伐採及びサガンスギによる再造林の確保
- ① 伐採・植林における法令等の遵守
- ② サガンスギ苗木生産供給体制の整備
- ③ 野生獣類による被害の防止対策

木を使う

1．県産木材の供給体制の強化

(1)県産木材の安定供給体制づくり
- ① 川上から川下の木材供給ネットワークづくり

(2)流通・加工体制の強化
- ① 製材工場の施設整備支援
- ② 製材工場生産体制の連携

2．県産木材の利用促進

(1) 建築物の木造化・木質化の推進
- ① 住宅・非住宅建築物における県産木材利用の推進
- ② 公共建築物の木造化・木質化

(2) 県産木材の新たな需要創出
- ① 新たな用途の開発・多角的利用
- ② 木質バイオマス利用の推進

(3) 県産木材利用の普及啓発
- ① 木材利用の意識の醸成
- ② 木育活動の強化・指導者の育成

人を育てる

1．経営基盤の強化

(1) 生産性向上への取組強化
- ① 施業集約化の取組強化
- ② IoTの活用等によるデジタル化の推進

(2) 林業事業体の体制強化
- ① 経営改善への支援

(3) 森林所有者の経営意識の向上
- ① 森林所有者に対する森林・林業の普及啓発
- ② 木育活動の強化・指導者の育成（再掲）

(4) 特用林産物の生産振興
- ① 原木シイタケの生産振興
- ② 新たな特用林産物の生産への取組

2．林業就業者等の確保・育成

(1) 所得や安全など労働環境の改善
- ① 雇用条件の改善
- ② 労働安全衛生の推進

(2) さが林業アカデミー等による人材の確保・技術向上
- ① 林業就業者を新たに見出し教育する取組
- ② きめ細やかな研修による技術向上

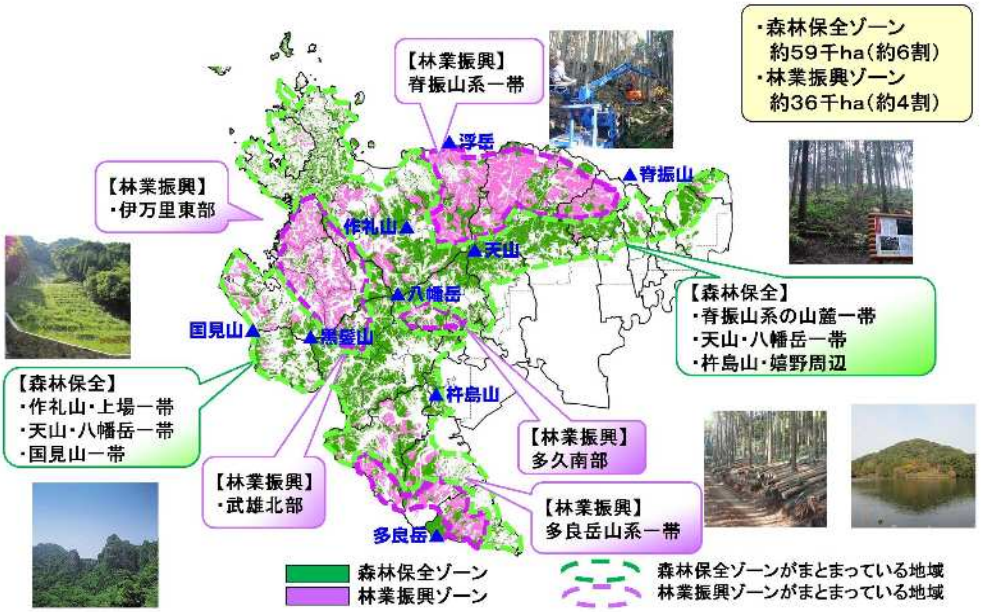
(3) 森川海のつながりへの意識の醸成
- ① 森川海人っプロジェクトの推進
- ② 森林環境教育の推進

持続可能な佐賀の森林・林業の確立

森林のゾーニング

森林の現況、林地生産力及び路網整備の状況等を把握のうえ、流域を単位として森林に求められる機能に応じて、「森林保全ゾーン」と「林業振興ゾーン」に区分し、効率的かつ効果的な森林整備を推進します。





中期目標

基準年
2022（R４年度）

中期目標
2032（R14年度）

森をつくる

- 間伐面積
- 広葉樹林化面積
- 主伐・再造林面積
- 林道・作業道整備延長

木を使う

- 素材生産量
- 県産木材の県内消費量
- 県産木材の自給率

人を育てる

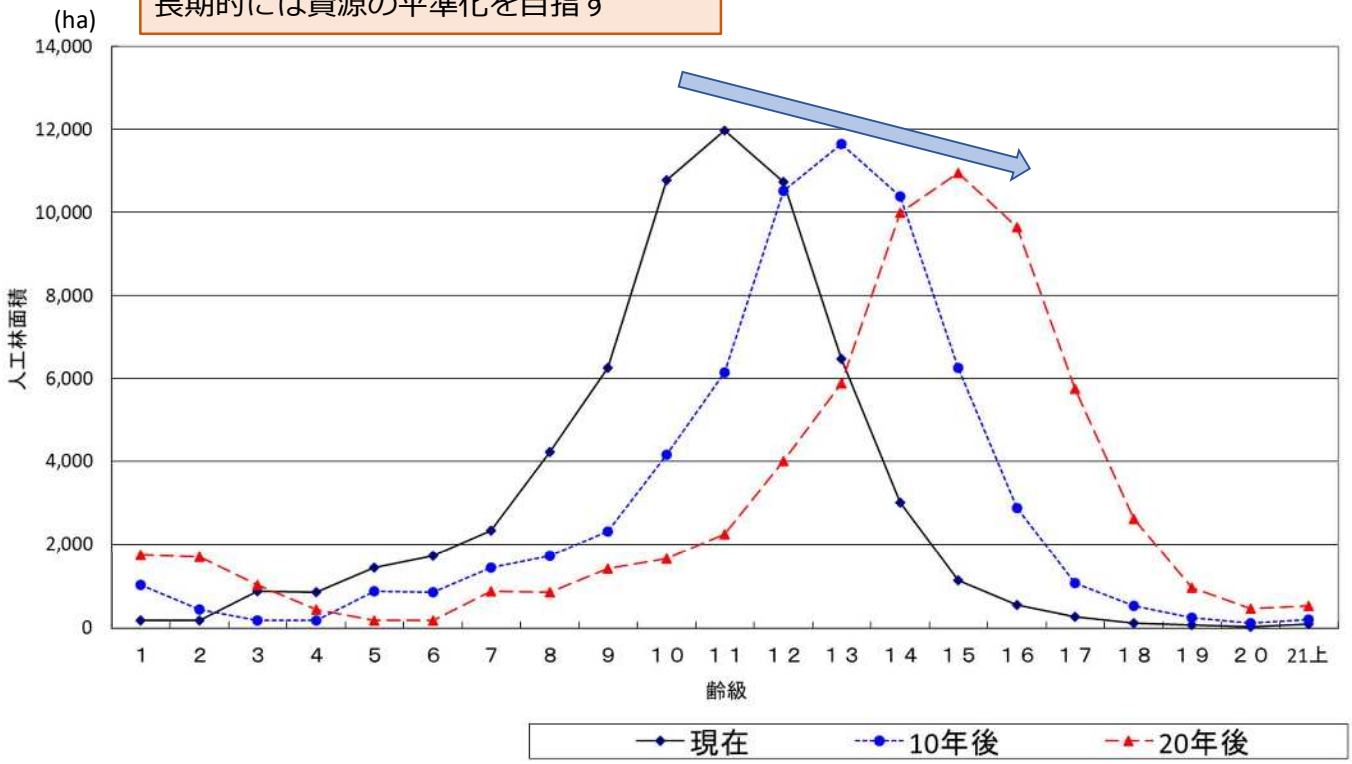
- 生産性（主伐・間伐）
- 意欲と能力のある林業経営者数
- 林業担い手の人数・新規就業者数
- 林業における死傷者数
- 森づくり活動に取り組む団体数・面積

※目標項目及び目標数値については
今後検討

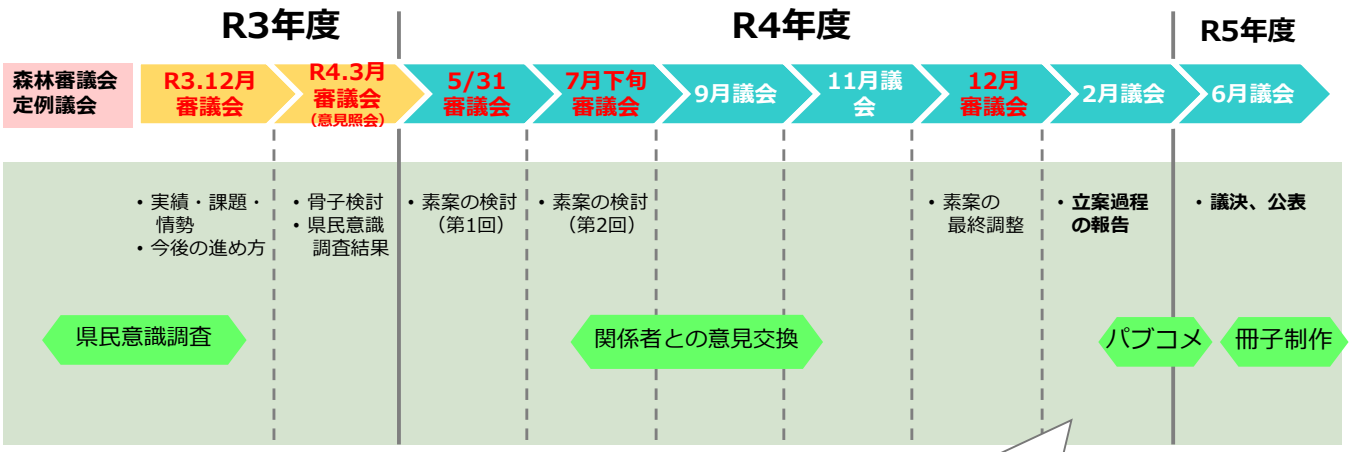
参考資料

人工林における齢級構成の見通し

木材利用及び再造林をより一層促進し、
長期的には資源の平準化を目指す



ビジョン見直し事務スケジュール



※同ビジョンは、条例により、議会の議決事件として審議される基本的な計画と位置付けられている。